

結果概要

会議名称	第1回 渋川市国民健康保険あかぎ診療所のあり方検討委員会
開催日時	令和3年10月21日(木) 13時30分から14時50分まで
開催場所	渋川市役所 第二庁舎 201会議室
出席者	○委員：7名 ○市長 ○事務局：総合政策部長、政策創造課診療所改革室長、改革係員 スポーツ健康部保険年金課長、国保あかぎ診療所所長補佐
配付資料	・渋川市国民健康保険あかぎ診療所のあり方検討委員会設置要綱 ・資料1 渋川市国民健康保険あかぎ診療所のあり方検討委員会について ・資料2 渋川市国民健康保険あかぎ診療所の運営状況について ・資料3 渋川市の医療の状況について
会議次第	1 開 会 2 挨拶 3 自己紹介 4 委員長及び副委員長の選出について 5 議 事 （1） 渋川市国民健康保険あかぎ診療所のあり方検討委員会について （2） 渋川市国民健康保険あかぎ診療所の運営状況について （3） 渋川市の医療の状況について （4） その他 6 閉 会
委員長及び副委員長の選出	○委員長及び副委員長の選任については、事務局より提案し委員の承認を得ることです承された。 事務局より委員長には川島委員を、副委員長には田中委員の選出を提案し、委員の承認を得た。
会議結果	（1） 渋川市国民健康保険あかぎ診療所のあり方検討委員会について （2） 渋川市国民健康保険あかぎ診療所の運営状況について （3） 渋川市の医療の状況について （4） その他 以上の議案について、各委員より質疑や意見があった。 （詳細は発言概要のとおり）  【次回開催予定】 第2回 渋川市国民健康保険あかぎ診療所のあり方検討委員会 令和3年11月25日(木) 17時30分から 渋川市役所 本庁舎3階 大会議室

発 言 者	発 言 内 容
委員長	<p><b>5 議事</b></p> <p>(1) 渋川市国民健康保険あかぎ診療所のあり方検討委員会について  それでは、議事(1) 渋川市国民健康保険あかぎ診療所のあり方検討委員会について、事務局より説明をお願いします。</p>
事務局	<p>渋川市国民健康保険あかぎ診療所のあり方検討委員会の設置目的、委員の選考、開催スケジュール等について説明。</p>
委員長	<p>説明が終わりました。ご意見等がありましたらお願いいたします。</p> <p>(質疑・意見なし)</p>
委員長	<p>(2) 渋川市国民健康保険あかぎ診療所の運営状況について  続いて、(2) 渋川市国民健康保険あかぎ診療所の運営状況について、事務局より説明をお願いします。</p>
事務局	<p>渋川市国民健康保険あかぎ診療所が開設されてから現在に至るまでの運営状況、利用状況、これを取り巻く環境の変化について、また、国民健康保険加入者の医療機関受診地域について説明。</p>
委員長	<p>説明が終わりました。ご意見等がありましたらお願いいたします。</p>
委員	<p>診療所の設置された目的というのは何ですか。</p>
事務局	<p>市町村合併前の旧赤城村で運営していた旧赤城南診療所と北診療所は、昭和20年代初期、無医村・医師不足を解消するため設置されました。特に、北診療所は平成15年度まで「へき地診療所」としての役割を担っていました。</p> <p>平成18年2月20日、市町村合併により渋川市となり、新市における診療所のあり方を検討した結果、今後とも本市の地域医療を確保すると共に、医療・介護・保健・福祉の連携とサービスの充実を図るため、2ヶ所の診療所を統合し、新たに診療所を建設し運営して参りました。</p>
委員	<p>令和3年度は公債費の繰上償還をしたとあるが、診療所の廃止を前提として整理を行ったものですか。</p>
事務局	<p>公債費は、診療所建設に係る金融機関からの借入金を償還するも</p>

	<p>のです。</p> <p>診療所建設の公債費は、本市においては他の公債費のなかでも利率が高いことから、本来は令和7年度まで償還を行う予定であったものを、令和3年度において繰上償還を行ったものであり、診療所を廃止することを前提としたものではありません。</p>
委員	<p>診療所の運営にあたり、当初は医師2名であったのが1名になったとありますが、医師1名はどちらに行ったのでしょうか。</p>
事務局	<p>定年退職後、再任用職員として雇用されていましたが、その後退職されています。</p>
委員	<p>貸借対照表があれば、借入がいくらで金利がどの程度なのか、市からの繰入がどの程度なのかが明瞭になりますが、あかぎ診療所は貸借対照表はありますか。</p>
事務局	<p>診療所の会計は、特別会計であり貸借対照表はありません。</p>
委員	<p>建設に係る公債費を繰上償還しましたが、診療所はこのほか公債費はどの程度ありますか。</p>
事務局	<p>利率の低い医療用機械器具に係る500万円ほどとなりました。</p>
委員	<p>あかぎ診療所の利用者は、7,000人から8,000人で推移していますが、一般的に診療所は何人程度患者数があれば経営が安定しますか。</p>
委員	<p>やり方次第ですが、内科だと年12,000人から15,000人は見込まないと安定しないかもしれません。</p>
委員	<p>人件費には、診療所運営に係る全ての方の給料が含まれているということでよいのでしょうか。</p>
事務局	<p>平成29年度年度以前は、事務職員の人件費は一般会計から支出されていましたが、平成30年度以降は診療所の人件費として含まれています。</p>
委員	<p>診療所の人件費率が80%というのは、運営的には適正なのでしょうか。</p>

委員	診療所だと人件費比率は60%程度が適正かと思うので、あかぎ診療の人件費率はかなり厳しい状況です。
委員長	診療所の経営状況については、委員の皆さんが初めて見ていただくものであり、分かりにくいかもしれませんので、不明な点がある場合には改めて事務局にお問い合わせください。
委員長	<p><b>(3) 渋川市の医療の状況について</b></p> <p>続いて、(3) 渋川市の医療の状況について、事務局より説明をお願いします。</p>
事務局	市内の医療施設、介護施設、障害福祉施設の設置状況と、本市の医療介護需要予測を日本医師会の地域医療情報システムから引用したデータなどをもとに説明。
委員長	説明が終わりました。最後の議事になりますので、これまでの内容も含めて、ご意見等がありましたらお願いいたします。
委員	資料3で、渋川市全体の状況は示していただきましたが、あかぎ診療所利用者の居住地状況はいかがでしょうか。
事務局	資料2、4ページの「3 診療所の利用状況について」で、診療利用者の居住地を記載させていただきましたが、赤城地区の利用は80%です。
委員	赤城地区内でももう少し細かい居住地域が提示できれば、検討の材料になると思います。
事務局	次回までに、複数月かつ自治会単位で抽出し、個人が特定されない範囲でご提示させていただきます。
委員	高齢化率の上昇と共に、訪問診療の需要は高まると思います。訪問診療は収益性は良くないと思いますが、今後の市内の訪問診療は維持できるのでしょうか。
委員	訪問診療を行う先生がいれば可能だと思います。
委員	今の診療所は、新型コロナウイルスワクチン接種を積極的に行うことで通常診療については縮小したとありますが、どの程度縮小し、それまで通院されていた患者はどちらに行かれたのですか。

事務局	<p>今年度は毎週水曜日の午前のみ訪問診療を行っており、ワクチン接種はこれまでに約2,400人に対して接種しました。また、これまでに通われていた患者には、それぞれ紹介状を出して対応しています。紹介先については、次回までに提示させていただきます。</p>
委員	<p>12月で医師が辞めると耳にしましたが、12月以降、診療所はどうなりますか。</p>
事務局	<p>医師がいなければ、休診となります。</p>
委員長	<p>本日お示しした資料のほかに、必要な情報があれば事務局にお伝えいただければ次回までに対応させていただくので、お気づきの点、不明な点も合わせてご連絡をいただくようお願いいたします。</p>